

グローバル教養科目 (Global Collaboration Exercise)
(2025 年度 A セメスター) にかかる
東京フォーラム 日韓学生交流プログラム (グローバル協働演習) 総合募集要項

2025.6

※本プログラムは、グローバル教育センターが 2025 年度 A セメスターに開講する授業科目「グローバル教養科目」の一部として実施される。本プログラムの募集・選考は 2025 年度 S セメスター中に行い、その実施は 2025 年度 S セメスターから A セメスターにまたがる。なお、授業科目としての履修登録は 2025 年度 A セメスターの履修登録期間中に行うこと。

※募集に関する情報・応募書類等は一部変更される場合があり、また有益な情報・よくある質問等を後日追加して掲載する場合もある。よって、最新情報を必ず Go Global 東京大学海外留学・国際交流情報ウェブサイトを確認すること。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-TFSS.html>

1. 概要

掲題プログラムに参加する学生を募集する。

- 1) 本プログラムは世代を代表する日韓学生が、徹底した意見交換・討議を踏まえた切磋琢磨を通して、世界の大きな社会課題に対する問題解決の当事者として自分達は何ができるのか（「社会課題解決の当事者としてのリーダー宣言」）を自ら問い、かつ発信する場である。
- 2) 東京大学学生、韓国学生の韓国ソウルおよび東京相互訪問を通して、両国学生の両国理解を更に深めると共に、学生の当該社会課題の本質の解像度を高めるために、東京フォーラム (Tokyo Forum) コミュニティー企業の支援を得て、講師派遣、審査員派遣、メンタリング提供等を行う。
- 3) 両国訪問時の現地プログラムに加え、事前準備のためのオリエンテーション・講義や主として参加学生中心のオンラインプログラムも実施する。

今回のプログラムでは下記のテーマを設定する。

- ・資本主義の課題に、多文化共生を通じて自分たちはどう応えられる？
“ How can we shape the future of capitalism? ”

【東京フォーラムについて】

東京フォーラムは東京大学と韓国の Chey Institute for Advanced Studies が共同で開催する国際会議。本フォーラムは、世界各地から研究者、政策決定者、経営者や実業家、NPO 指導者など、異なる背景をもった多様な人々が一堂に会し、そこで、現代世界が直面している課題の解決と、未来の地球と人類社会のあり方について、自由に情報と意見を交換できる場となることを目指している。

公式 HP : <https://www.tokyoforum.tc.u-tokyo.ac.jp/ja/index.html>

2. 履修登録・単位等

本プログラムは、2025 年度 A セメスターの授業科目の一部として実施されるものである。本プログラムに参加が決定した学生は、2025 年度 A セメスター履修登録期間（所属学部・研究科の履修登録期間）中に必ず次の授業に履修登録をすること。

- ・ 科目名称：グローバル教養科目 (Global Collaboration Exercise)
- ・ 時間割コード：7V0101083-P/F（合否評価の科目）

学内選考により本プログラムへの参加が認められ、所定の要件を満たせば 2 単位を取得できる。成績評価の配分は次の通り：

- ・ Attendance + Class Contribution (20%)
- ・ Group Presentation and Team Efforts (50%)
- ・ Individual Report (30%)

その他、詳細については 9 月上旬頃に公開予定のシラバスに記載する。

3. 全体スケジュール

- ・ 8月4日（月）夜（18:00-21:00 の間の3時間）：キックオフ・オリエンテーション&事前レクチャー（オンライン）
- ・ 8月26日（火）～29日（金）：韓国ソウル訪問
- ・ 9月～11月：講義・準備会議（オンライン）
- ・ 11月19日（水）～23日（日）：東京フォーラム参加 ほか
- ・ （具体的な日程案・詳細は、別紙参照。）

4. 応募資格・条件

以下の要件をすべて満たすこと。

【学内における資格・条件】

- (1) 応募時に本学学部または大学院研究科・教育部の正規課程に在籍し、プログラムを通じて本学学部または大学院研究科・教育部の正規課程に在学する者（プログラム期間中に休学中の者や卒業等により本学学籍を失う者は参加できない）。
- (2) 2025年度Aセメスターに「グローバル教養科目」の履修対象となる見込みの者。
※履修対象となる正規課程学生：学部後期課程学生、大学院学生、前期課程2年次最終セメスターに在籍している進学内定者。
- (3) 応募時にプログラム参加資格を満たしていても、2025年度Aセメスター時に「グローバル教養科目」の履修対象とならない場合、履修登録・単位取得はできないことを理解し応募すること。
- (4) 学部学生は、国際総合力認定制度（Go Global Gateway）におけるオンデマンド講座の受講（動画視聴と確認テストの提出）を完了していること。受講の所用時間の目安は約100分。
※オンデマンド講座：<https://globe.u-tokyo.ac.jp/ja/ggg.html>
- (5) 本プログラムに参加するにあたり、本学の他の授業履修に関して特別な配慮はないことを理解し、本学の授業・試験期間、その他各自の予定等を応募前に十分確認し、全日程参加が可能な場合のみ応募すること。なお、本学からの派遣可能人数に上限があり、学内選考後に辞退すると他の学生の留学の機会を失うことにつながるため、応募後に辞退することのないよう十分注意すること。やむを得ないと判断される場合を除き、辞退した場合は今後の留学プログラムや奨学金の選考に影響する可能性がある。
- (6) 本学の他の授業等に出席できない場合の扱いについては、プログラム参加時の所属学部・研究科の判断による。本プログラムへの参加に際し、特別な配慮が行われるとは限らないため、十分確認・納得した上で応募すること。
※教養学部前期課程に関しては、本プログラムの参加により他の授業又は試験に出席できない場合でも特別な配慮は取られず「欠席」扱いとなる。また、欠席による追試験の申請理由にもならないが、詳細は教養学部教務課に確認すること。
- (7) 本プログラム参加時における本学の指導教員等が既に分かっている場合は、本プログラムに応募することを事前に報告し、了承を得た上でUTAS申請書の所定の欄に了承を得た日付を入れること。該当する教員等がいない学生は、所定の欄に「指導教員なし」と入力すること（14. 応募方法・応募書類(2)）。
- (8) プログラム参加時に所属する予定の学部・研究科の担当部署で、応募前に、プログラム参加に関する学務上の留意点の説明を十分受け、UTAS申請書の所定の欄に担当部署名・担当者名のイニシャル・日付を記入し、納得した上で応募すること（14. 応募方法・応募書類(2)）。記入されていない場合は申請を受理しない。業務の都合等により、急な対応は受け付けられない可能性があるため、プログラム中に所属する予定の学部・研究科の担当部署によく確認し、締切日までに余裕をもって説明を受けられるようにすること。なお、学部・研究科により、プログラム参加にあたって独自の条件を課す場合がある。

【保険への加入】

プログラムへの参加が決定した場合、留学中の保険として、公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）の学研災付帯海外留学保険「付帯海学」に必ず加入することを、応募にあたり理解すること（加入に要する経費は自己負担となる）。

日本出国（日本の自宅を出る日）から帰国（日本の自宅に帰る日）までをカバーする本保険に加入すること。間違った加入期間によって発生した損害は自己責任とする。なお、加入に当たっての詳細は、選考終了後、派遣候補学生に追って通知する。

【派遣留学生危機管理サービスへの加入】

プログラムへの参加が決定した場合、留学中の危機管理対策として、日本エマージェンシーアシスタンス（株）の[派遣学生危機管理サービス OSSMA \(Overseas Student Safety Management Assistance\)](#) に必ず加入することを、応募にあたり理解すること（加入に要する経費は自己負担となる）。なお、加入に当たっての詳細は、選考終了後、派遣候補学生に追って通知する。

5. 費用・奨学金

別紙参照

6. 応募締切

7月18日（金）正午※

※本部国際教育推進課への問い合わせは7月16日（水）正午まで。

※学部・研究科の担当部署によっては、応募前にプログラム参加に関する学務上の留意点の説明の締切日をこれより早く設定している場合があるので、事前によく確認し、締切日までに余裕をもって説明を受けられるようにすること。

7. 学内選考

- (1) 原則、選考は、書類審査による。なお、参加者の多様性の観点から、UTAS 上の情報を用いて性別・学年・専攻に基づき、韓国側と調整の上で募集者の選抜を行う可能性がある。
- (2) 採択者は10名程度とする。
- (3) 可否結果の連絡等についての連絡は電子メールで行うため、応募後は定期的に UTAS での電子申請時に記載された電子メールアドレスを確認すること。重要な連絡が迷惑メールフォルダに振り分けられてしまう例もあるため、注意すること。
- (4) より多くの学生に海外体験の機会を提供するため、過去に同じプログラムへの参加経験がある学生が当該プログラムに再度応募する場合は、学内選考の際に優先順位が低くなる場合があるが、本プログラムに参加することで、将来グローバル教育センターが実施する他のプログラム（全学交換留学等）への選考や参加には影響はない。
- (5) 選考結果は、7月25日頃、電子メールで学生本人及び所属学部・研究科の担当部署に通知する。

8. 学内選考通過～プログラム参加決定後の留意事項

【プログラム参加手続き及び渡航手続き】

- (1) 参加手続き及び渡航手続き等は、本部国際教育推進課の指示に従い、本人の責任により行うこと。査証（ビザ）取得手続きについては、必要な場合は各自で行うこと。また、これらに要する費用も本人の負担となる。
- (2) 8月26日から29日にかけて実施されるソウル研修の参加には、2025年12月1日以降まで有効なパスポートの所有が必要である。採択された場合、ソウル研修に必要な航空券購入の手続きをすぐに行うため、各自でパスポートの有効期限を確認、更新すること。なお、応募時点でパスポートを所持していないものは、渡航までに余裕をもってパスポートを取得できるよう、採択結果通知後、速やかに取得手続きを行うこと。

【学内での手続き】

- (1) プログラムへの参加が決定した場合、所属学部・研究科の担当部署に確認し、海外渡航に必要な手続きを行うこと。（必要な手続きは、所属学部・研究科毎に異なる。）
- (2) プログラムへの参加が決定した場合、指導教員等の関係者には事前に連絡するなどして、海外に一定期間派遣されることにより関係者の教育・研究活動等に支障をきたさないよう努めること。
- (3) 学内選考後の辞退は他の学生の不利益となるため、応募後に辞退することのないよう十分注意すること。やむを得ない事情により参加を辞退しなければならない場合には、採否結果の受領前であっても遅滞なく、本部国際教育推進課国際教育チーム（global.edu.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp）に連

- 絡すること。
- (4) そのほか、本学が指示する注意事項に従うこと。

【留学のための情報、危機管理】

一般的な留学のための情報や危機管理等については、Go Global ウェブサイトを参照すること (<http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/administration/go-global/voyage/>)。特に、[危機管理ガイドブック](#)は必ず熟読すること。

9. プログラム参加の際の注意事項

- (1) プログラムの趣旨を理解の上、十分な学習成果を挙げ、プログラムを修了することに努めること。
- (2) 参加学生は本学を代表する立場にあることを自覚し、滞在先の機関・国の法令、規則、規程、マナー等を遵守すること。

10. 参加後の報告等

- (1) 参加学生のうち学部学生は、本プログラム終了後に国際総合力認定制度 (Go Global Gateway) の修了認定を申請すること (既に認定済、または認定申請中の場合は、再度申請する必要はない)。
- (2) 応募時の UTAS からの電子申請に記載の住所や電話番号・電子メールアドレスに変更があった場合は、本部国際教育推進課へ連絡すること。プログラム終了後も成績証明書や修了証の送付・必要事項の連絡の際にも必要となるので、留意すること。
- (3) 参加学生には、プログラム参加後、報告会や説明会への参加のほか、本学の国際化に関する業務への協力 (留学プログラムの広報や学生へのアドバイス、アンケート調査等) を依頼する場合がある。依頼があった場合、やむを得ない事情のない限り協力すること。

11. 問い合わせ先

※電子メールで問い合わせる場合は、必ず件名にプログラム名、本文に氏名・所属・学年を明記すること。

- (1) プログラム全体、各プログラムの内容、申請や手続きに関すること：
東京大学本部国際教育推進課 国際教育チーム (global.edu.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)
- (2) [国際総合力認定制度 Go Global Gateway](#) に関すること：
東京大学本部国際教育推進課 国際支援チーム (国際総合力認定制度担当)
(go-gateway.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)
- (3) UTAS 電子申請「2. 基本情報」及び「4. 家族等関係者の連絡先」記入・修正方法：
応募時の所属学部・研究科の担当部署
- (4) 単位認定等、本学での学務関係の事項：プログラム参加時の所属学部・研究科の担当部署
各学部・研究科の担当部署一覧：<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/contact-department.html>

12. 応募方法・応募書類

- (1) 応募締切日時までに学務システム (UTAS) からの電子申請を完了させること。
◇ 応募締切以降、電子申請システムは閉じられ、申請は一切受け付けない。また不備 (特に募集要項やUTAS電子申請画面に表示される青字の説明に沿っていない不備) のある申請は締切前に申請を完了しても受理されないか、不備のない申請を行った学生が選考で優先されることになる。余裕を持って応募書類を作成・確認し、応募すること。応募締切後、申請について差し戻しを受けた場合は、差し戻し時に指定される期日までに再提出されれば、選考対象となる可能性がある。応募締切前後は特に、UTASで配信される差し戻しのメールをよく確認すること。
- (2) UTAS 電子申請画面に表示される指示・説明をよく確認し、その通りに入力すること (以下は特に注意が必要な項目)。
◇ 「2. 基本情報」及び「4. 家族等関係者の連絡先」は申請画面では記入・変更できない。そのため記入または変更が必要な場合は、応募時の所属学部・研究科の担当係に記入・修正方法を確認し、正しい内容を記入した状態で申請すること。
◇ 「3. 申請者本人の連絡先」電子メールアドレスは、本プログラムに関するやり取りに使うため、添付ファイル等も受信できる利用しやすいメールアドレスとすること。

- ◇ 「6. プログラム中の所属・学年」指導教員等氏名について、いない場合は「なし」と入力すること。いる場合は、「17. 指導教員への連絡」に了承を得た日付を入力すること。
- ◇ 「14. プログラム参加を希望する理由」には、**志望理由を英語で300 words程度で記述**すること。志望動機は、①本プログラムに関心を持った理由、②これまでの海外経験または異文化交流の経験、③関心のある社会的・経済的課題と本授業を通じて探究したいこと、の3点について簡潔に記入すること。
- ◇ 「15. 連絡先メールアドレスについて」「16. 募集要項と誓約書に記載の事項について」は、UTAS上に記載された指示に沿って確認・入力すること。
- ◇ 「18. プログラム参加時に所属する予定の学部・研究科からの留意事項確認」には、**プログラム参加時に所属する予定の学部・研究科の担当部署から参加に関する留意点の説明を受けた上で、①担当部署名 ②担当者のイニシャル ③説明を受けた日付・時刻を記入すること。記入されていない場合は申請を受け付けない（例：①●●学部△△チーム ②H・T ③10月21日10時50分）。**

(3) 電子申請時に「19. 添付資料」でアップロードする書類については、下表を参照のこと。

応募書類	対象者	提出方法・備考
・パスポート顔写真ページの写し	所持者のみ	8月26日から29日にかけて実施されるソウル研修の参加には、2025年12月1日以降まで有効なパスポートの所有が必要である。採択された場合、ソウル研修に必要な航空券購入の手続きをすぐに行うため、各自でパスポートの有効期限を確認、更新すること。なお、応募時点でパスポートを所持していないものは、渡航までに余裕をもってパスポートを取得できるよう、採択結果通知後、速やかに取得手続きを行うこと。（応募時点でパスポートを所持していない場合は、採択結果通知後速やかに、パスポートに記載予定のパスポート氏名、生年月日、性別を東京フォーラム運営事務局に申し出ること。）
・誓約書	全員	指定書式（ダウンロード）に 記入・署名後 、PDFでアップロードする。いずれの署名も電子署名も可とする。

【電子申請応募先】

学務システム（UTAS）にログイン後、画面上部にある「海外派遣」のタブより申し込むこと。

- ◇ 学務システム（UTAS）：<https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/>
- ◇ 海外派遣プログラム申請の手引き（PDF）：<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400238867.pdf>
を参照のこと。

【応募書類指定書式のダウンロード先】

Go Global ウェブサイトよりダウンロードすること。

<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-TFSS.html>

以上